

広島県北部で盛んな神楽（芸北神楽）は島根県の出雲流神楽を源流とし、石見神楽を経て江戸期に伝わつたものと言われています。

神や自然に秋の実りを感謝するお祭りとしてかつては神職が担っていましたが、明治期に氏神神社の氏子へと引き継がれ、大衆的で娯楽性の高い神楽文化が発達しました。

戦後、国家神道につながる惧れありとして神楽上演禁止の動きもありましたが、物語性を強く打ち出した近代神楽を新たに創作することで検閲をクリアして危機を脱します。また、競演大会を通じて神楽団は一層切磋琢磨し、芸術性を高めていきました。

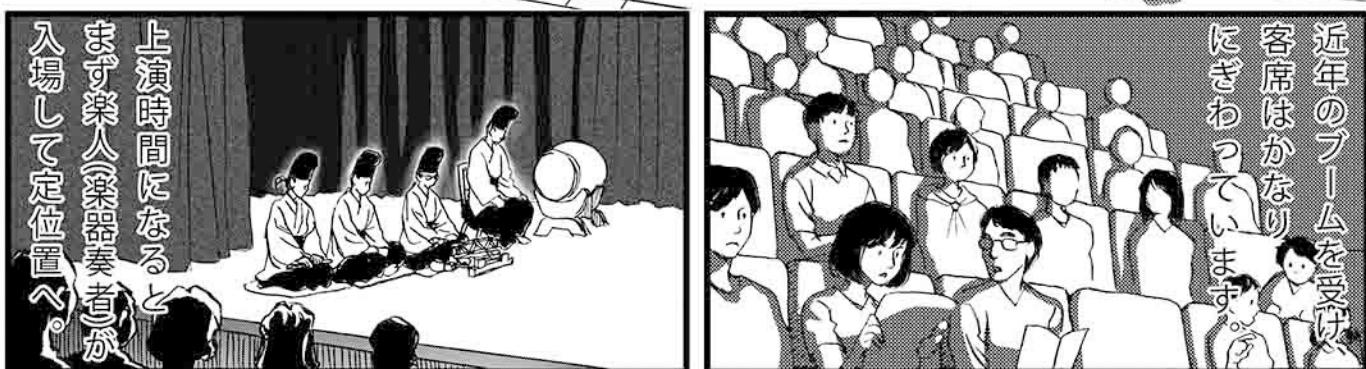
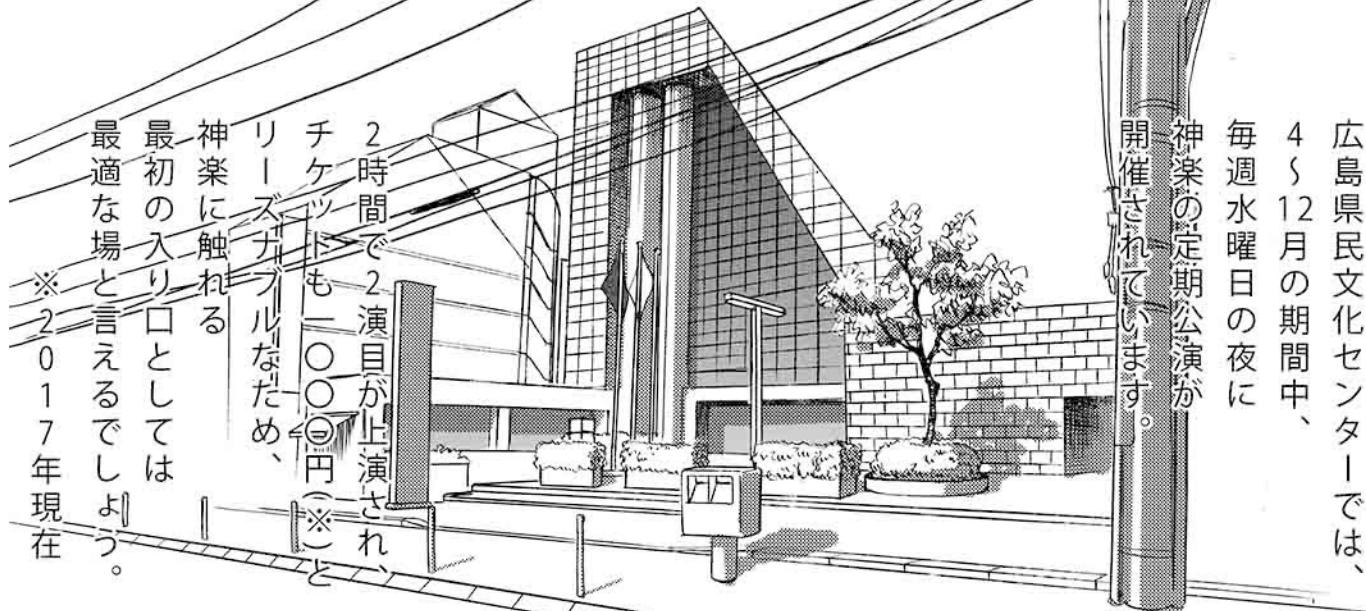
現在、芸北神楽（以下、「広島神楽」）はその娯楽性・芸術性の高さから、郷土芸能としては異例ともいえる多くの熱狂的ファンを獲得し、県内各地で盛んに上演されています。

漫画

広島神楽鑑賞レポート

by みしまゆかり



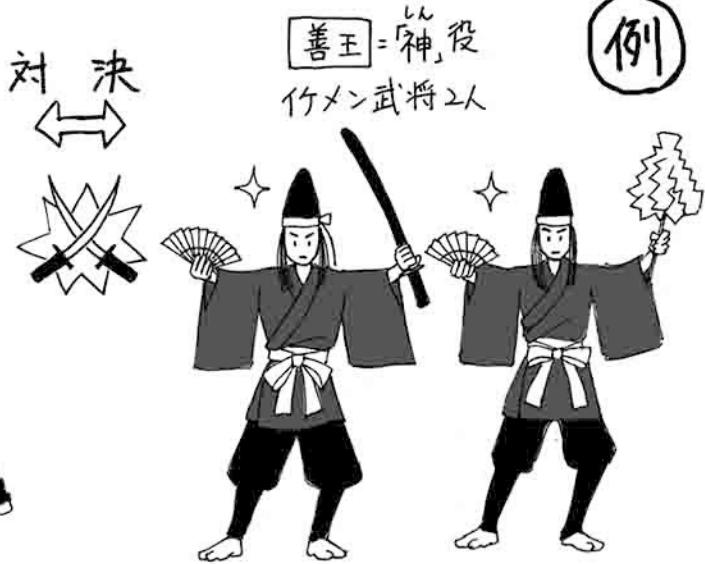




そもそもこのところに進み出でたるは
平将門が娘 五月姫と申す者にて候



時代背景や人物像、ストーリー展開を
ストレスなく追うことができます。



神楽の演目は様々ですが、
基本的に勧善懲悪型の話が多く、
善玉と悪玉のキャラクターは
外見を見ればすぐに分かります。



舞っていいる最中に衣装が変わったり
くるりと回った一瞬で鬼に変化するなど、
見どころも盛りだくさん。

物語のクライマックスでは、
豪華、絢爛な衣装を
身にまとった舞手たちが、
激しいアクションを繰り広げます。

フュアスケートのスピiningを
彷彿とさせる高速回転は必見！



しかし、

これほど神楽が
盛り上がっている一方で、
多くの課題もあります。



人気には比例して団員も
増えてくれれば
良いんだけど……

課題① 団員不足
神楽が盛んな地域の
少子高齢化と人口減少の
スピードは速く、
次世代を担う若い団員を
集めるのは大変です。

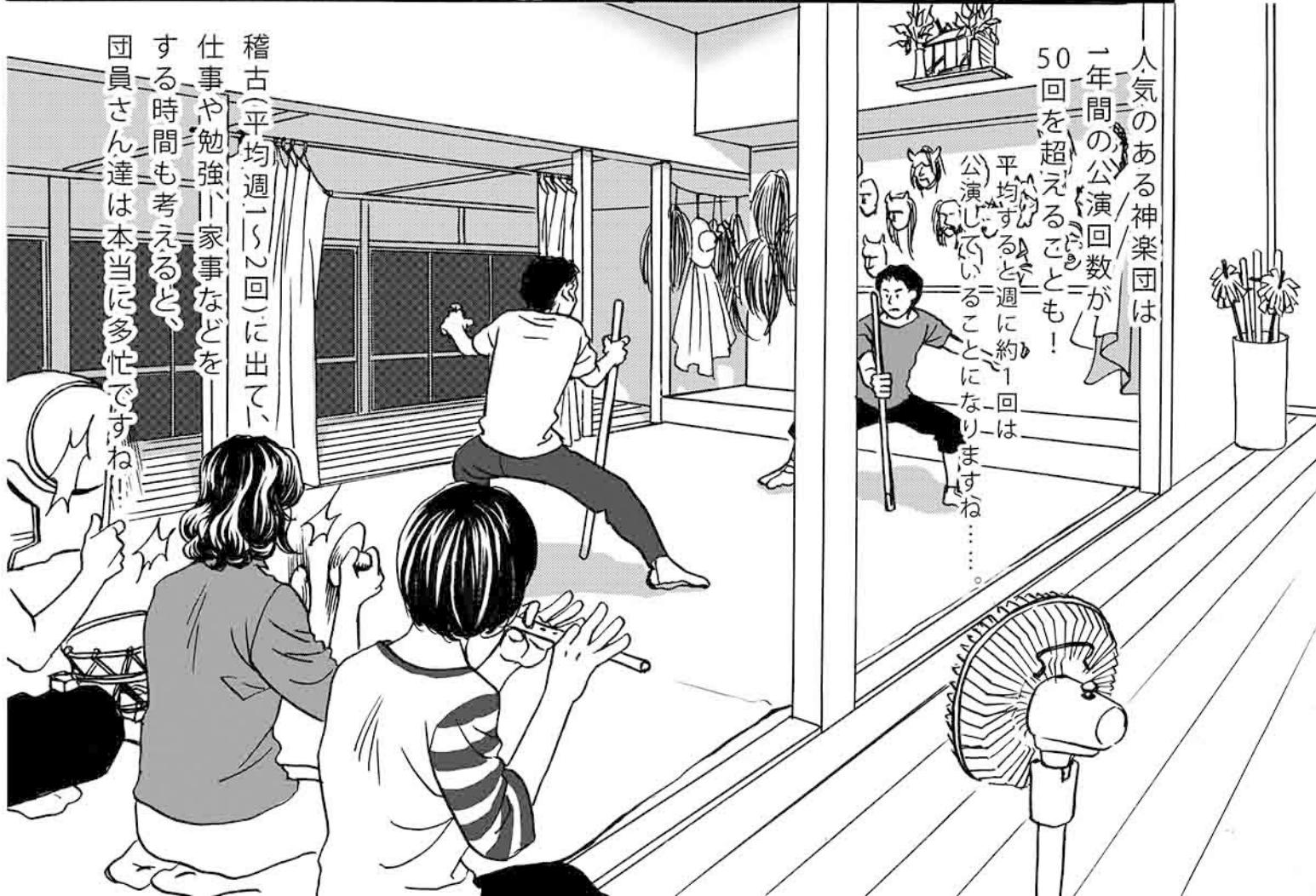
団員達は普段

「本業」を別に持つておらず、
自分の仕事や学業をこなしながら
神楽の稽古や公演に励んでいます。



生活様式も多様化しており、
練習や本番に皆が揃って
参加できないことも多いとか。

しかしながら



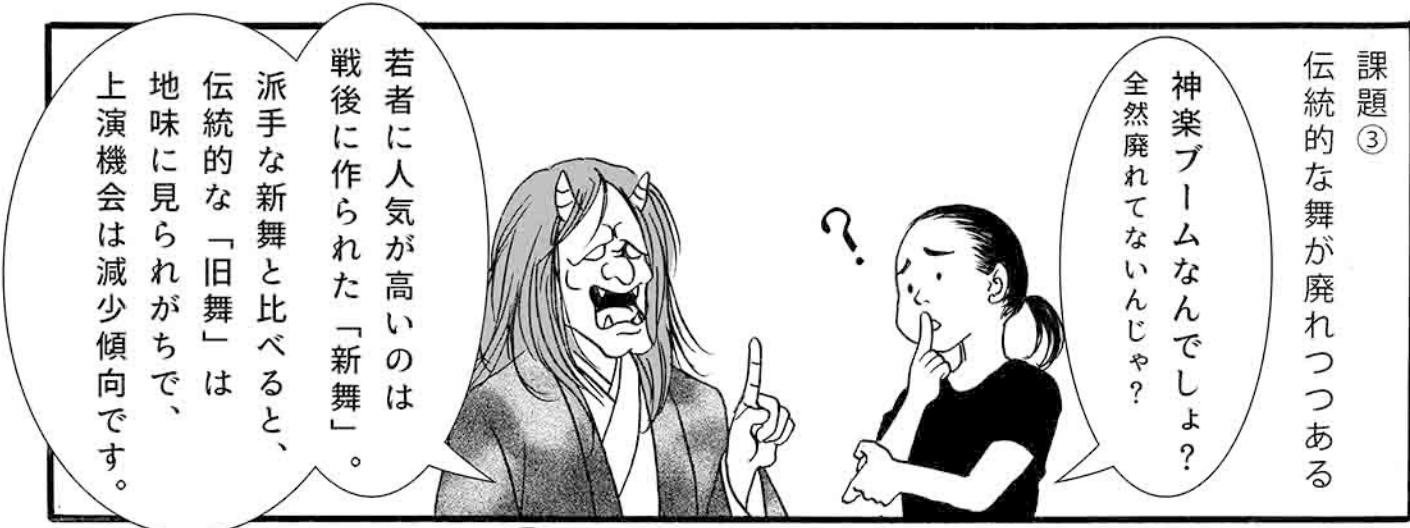
人気のある神楽団は
一年間の公演回数が
50回を超えることも！

平均する週に約1回は
公演していることになりますね……。

課題② 資金不足



課題③ 伝統的な舞が廃れつつある



こんな意見も。





神楽の現状をめぐつて
様々な意見がぶつかり合いますが、
意見は違えど、その根底にある
「神楽が好き」という気持ちは
共通のようです。

これまで観客としてただ楽しく鑑賞していましたが、背景を調べることで神楽の魅力や課題についてもっと深く知りたいと思うようになりました。

広島県民として自分にもできることはないか、引き続き考えていきたいと思います。

このレポートを描くにあたって、いくつかの神楽団の公演を拝見し、一部の神楽関係者の皆様には取材の機会をいただきました。



参考資料:

『中国地方の神楽の魅力』
(古事記を神楽で巡る神秘の旅) 実行事務局

『第4回マイクロソフトNPO支援プログラム
神楽活動団体調査報告書』(NPO広島神楽芸術研究所)

シンポジウム『新時代・神楽の可能性を求めて』
記録冊子 (NPO広島神楽芸術研究所)

取材協力:

NPO広島神楽芸術研究所 増田様

中川戸神楽団の皆様

ご多忙のところ、
ご協力ありがとうございました!